

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	12-106	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Hazardous drinking among restaurant workers. 飲食店従業員の危険な飲酒について		
<b>執筆者</b>		
Norström T, Sundin E, Müller D, Leifman H		
<b>掲載誌</b>		
Scand J Public Health. 2012 Nov;40(7):591-5		
<b>キーワード</b>		
飲酒、AUDIT、危険飲酒、予防のパラドックス、飲食店従業員		
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> スウェーデンの飲食店従業員を対象に①危険な飲酒者の割合はどれくらいか、②飲酒量の分布は、③予防のパラドックスが当てはまるかについて検討した。		
<b>方法：</b> 2008年10月から2009年12月までにストックホルムで開催された2日間のResponsible Beverage Service trainingに参加した飲食店従業員を対象にAUDITを用いてデータを収集した。スウェーデンの一般住民を代表する標本集団からコントロールを選定した。年齢を18-59歳に限定し、579名の飲食店従業員と434名の一般住民を解析の対象とした。		
<b>結果：</b> AUDIT（男性8以上、女性6以上）による危険飲酒者の割合は、一般住民より飲食店従業員は著しく多かった。特に30歳以下の女性でこの差が顕著であった。飲酒量の分布は、飲食店従業員と一般住民の間に差は認めなかった。飲酒に関する不調の76%は飲酒量の比較的少ない層（飲酒量の下位88%）から発生しており、予防のパラドックスがみられた。		
<b>結論：</b> 飲食店従業員は飲酒の観点からはハイリスクグループといえるだろう。		